

第 117 回 番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 31 年 1 月 29 日 (火) 18 時 30 分
- 2 開催場所 久留米市中央町 35-20
ドリームスエフエム放送(株) 本社
- 3 委員出席 委員総数 6 名
出席委員数 4 名
出席委員氏名 田中 優子・中西 昌人
(レポート) 吉富 巧・白谷 由紀子
放送事業者側出席者 秋穂 真由美 内藤 圭祐
- 4 議題 久留米市緊急告知防災ラジオ試験放送
- 5 議事の概要 放送事業者が資料とともに 事前に CD に収録した番組を各委員へ届け、感想、意見を述べて頂いた。
- 6 審議内容 ① 番組名：久留米市緊急告知防災ラジオ試験放送
② 放送時間：毎月 21 日 12 時 00 分、18 時 00 分
③ 放送形式：生放送
④ 審議の対象：平成 30 年 12 月 21 日 放送分
⑤ パーソナリティ：内藤 圭祐 ※12 時台は久留米市職員も参加
⑥ ディレクター：内藤 圭祐

【番組コンセプト】

久留米市防災対策課と弊社は災害時の緊急情報や避難情報を発信する目的で「久留米市緊急告知防災ラジオ」を平成 22 年度から運用中。専用の防災ラジオは、久留米市と弊社から緊急信号を発信することでスイッチがオフ状態でも自動起動して大音量で情報を伝達することができ、毎月 21 日の正午と 18 時に試験放送を行っています。(12 時台は久留米市、18 時台は弊社スタジオから発信)防災ラジオは久留米市内の学校、保育園・幼稚園、養護施設、高齢者施設、自治会長個人宅など 3,000 個程が配布されているほか、個人で 1,000 個程購入されています。また、Jアラートと連動した緊急地震速報や土砂災害警戒情報も自動機械音声で放送されます。特に昨年 7 月の豪雨災害、一昨年の九州北部豪雨の際は、緊急告知防災ラジオを通して避難情報などが発信されました。

委員のご意見

久留米市緊急告知防災ラジオ試験放送

- ① いざというときにこのシステムを起動させるためにこのような定期的な試験放送は必要だと思った。日頃からの備えの大切さや防災の呼びかけなどもあり聴いている人のためになればと思った。音量と内容が地味なので、聴いている人が聞き耳を立てるような効果音や音楽の工夫があってもいいのでは。
- ② 毎月試験放送があるとのことで、防災ラジオを身近に感じる良い機会であると思った。反面、毎月あることで慣れてしまって情報が入っていないとも思った。色々な人が担当して異なる声で発信するのもいいのでは。そういう意味では市職員が担当することはいいことだと思う。
- ③ 毎月、定期的に生放送で実施する、発信する側の情報伝達訓練と発信される側のラジオの作動確認は、災害時に備えた試験放送として、意義のある取り組みだと思う。2回の放送内容は同じでも、話し手によって聞きやすさに違いを感じた。市防災対策課には、頑張って伝わる放送に取り組んでもらいたい。
- ④ 近年は全国各地で自然災害が多発する極めて重大な状況にあり、私達が住む久留米市に於いても甚大な被害が発生し市民の不安は募る一方である。防災ラジオの試験放送や災害時の緊急情報や避難情報を発信していることは、行政が防災・減災への取り組みの1つであるが、久留米市内の学校を始め、自治会長個人宅など防災ラジオの配布は3,000個、個人購入1,000個程度と30万都市の久留米市にしては個数が少なく、その分緊急情報が伝わりにくい家庭も多い。まだまだ自治会防災対策や意識が薄い地域もあり、防災ラジオでも発信している「心がけ一つで助かる命がある」という久留米市民の共通認識が大事だと思う。
- ⑤ 東日本大震災の岩手県大槌町や熊本・朝倉・北野地区での災害ボランティア活動の中で、各個人がいち早く非難することが被災者の家族の教訓であると教えをいただいた。
- ⑥ 試験放送を定期的に行うことは良いことだが、女性のアナウンスも時としてあってもいいのでは。

7 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページへ掲載

8 次回の審議委員会は、平成31年3月26日(火)18時30分から行う予定